

遊牧から定住へ：モンゴルの定住化に伴う移動と所有の実態
に関するアンケート調査
報告書（速報版）

2024年11月

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系

小野悠研究室

アンケート調査概要

1990年以降の民主化や市場経済化の進展、さらに気候変動による深刻な雪害を背景に、草原での遊牧生活から都市部での定住生活へと移行する人々が増加している。これに伴い、職や教育、住居を求めて都市部への移住が進んでいる。本調査は、都市化が進行するモンゴルの地方都市における生活実態を明らかにすることを目的とし、移住・移動の実態や動産・不動産の所有状況に焦点を当てて実施した。

調査対象となったウリヤスタイ市は、モンゴルの主要な地方都市の一つであり、ザブハン県の中心都市である。首都ウランバートルから西に約1,000 kmに位置し、標高1,733 mに位置する

(Figure 0.1, Figure 0.2)。同市は面積32.04 km²の市街地に16,265人(2017年時点)が居住する。中心部には市役所、病院、学校などの公共施設や商業施設、集合住宅が整備された計画的市街地が形成されており、その周辺には無計画に形成されたゲル地区が広がっている。

本調査では、ウリヤスタイ市のTuv、Jargalant、Nogoon、Denjの4地区に住む100世帯を対象にアンケート調査を実施した(Table 0.1)。Tuv地区は都市中心部に位置し、集合住宅とゲル地区が混在している。一方、Jargalant、Nogoon、Denjの3地区は都市郊外に位置するゲル地区である。

Table 0.1 アンケート調査概要

実施期間	2023年8月
実施地域	モンゴル国ザブハン県ウリヤスタイ市の4地区 Tuv：中心地区 Jargalant：比較的古いゲル地区 Nogoon：田畑周辺に立地するゲル地区 Denj：新しいゲル地区
回答数	100世帯 各地区でランダムに25世帯を抽出。自宅を訪問して世帯主に対して対面形式で実施。世帯主が不在の場合は代理の者が回答。
アンケート項目	家族の構成と属性、移住の履歴、移動パターン、土地・家屋の所有・管理状況、家畜の所有・飼育状況、生活環境評価、等

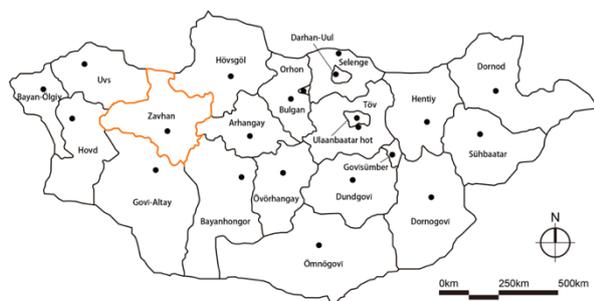


Figure 0.1 モンゴル国

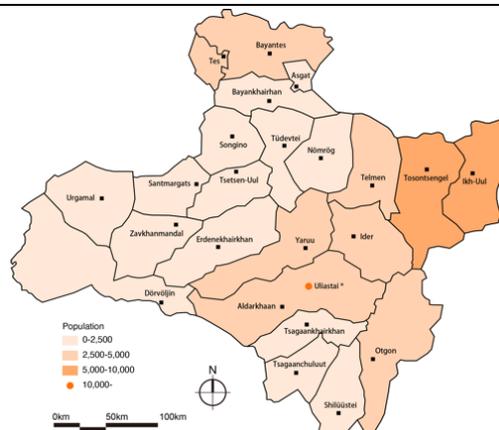


Figure 0.2 ザブハン県とウリヤスタイ市

調査票

モンゴル人の移動と暮らしに関するアンケート

この調査は、地方都市に暮らすモンゴル人の移動と暮らしについてお聞きすることで、モンゴルにおける都市計画やまちづくりのあり方について検討することを目的としています。

日付： 2023/ / アンケート ID： エリア：

あなたの家族についてお伺いします。

Q1 あなたが生まれてからの移住（Shiljilt）の履歴を教えてください。

No.	年代	場所（1）	場所（2）	住宅タイプ	居候	理由
1						—
2						
3						
4						
5						

Q2 あなた自身および同居家族について教えてください。

No.	年齢	性別	学校・職種など	移動（Aylal）	移動の時期	移動の理由
本人						
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						

Q3 同居していない子ども（世帯独立していない）はいますか？

同居していない子ども（世帯独立していない）はいますか？

はい いいえ

No.	年齢	性別	学校・職種など	場所(1)	場所(2)	移動（Aylal）	移動の時期	移動の理由
1								
2								
3								
4								
5								

Q4 家族以外の同居人はいますか？

家族以外の同居人はいますか？

はい いいえ

No.	年齢	性別	学校・職種 など	家族との関 係	家畜の世話	移動 (Aylal)	移動の時期	移動の理由
1								
2								
3								
4								
5								

Q5 家畜を所有していますか？

家畜を所有していますか？

はい いいえ

	数	場所	世話
小家畜（ひつじ、やぎ）			
大家畜（うし、うま、ラクダ）			

Q6 家畜を世話している人への生活支援（食糧、石炭、木、干し草などの供給）をしていますか？

1 はい 2 いいえ

Q7 田畑を所有していますか？

1 はい 2 いいえ

Q8 現在住んでいる住宅の他に住宅を持っていますか？

現在住んでいる住宅の他に住宅を持っていますか？

はい いいえ

No.	敷地内	場所(1)	場所(2)	住宅タイプ	居住期間
1					
2					
3					
4					

Q9 家族以外の家を管理していますか？

家族以外の家を管理していますか？

はい いいえ

No.	敷地内	家族との関係	家畜の世話
1			
2			
3			
4			
5			

Q10 あなたは Huduu、Sumiin tuv、Uliastai、Ulaanbaatar の生活についてそれぞれどう感じますか？

		とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い
自然環境	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					
人間関係	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					
自然からの安全性	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					
都市的な安全性	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					
インフラ	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					
生活環境	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					
仕事	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					
教育環境	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					
娯楽	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					
暮らし全般（総合満足度）	Huduu					
	Sumiin tuv					
	Uliastai					
	Ulaanbaatar					

アンケート調査結果

(1) 移住の履歴

出生地から現居住地までの居住地数は2～5箇所であり、最も多いのは4箇所です。全体の42%、次いで3箇所が35%を占めている（Figure 1.1）。2箇所は9%にとどまっているが、出生地から直接現居住地に転居した人も一定数存在することが分かった。

出生地から現居住地までの居住地を「出生地」、「途中」、「現居住地」の3つに分類すると、「途中」の数は161箇所になった（Table 1.1）。

居住地別の特性を詳しく見ると、居住開始年代において「出生地」は1970年代が最も多く30%を占め、「途中」は1990年代が54%で最多、「現居住地」は2000年代が40%で最も多かった（Figure 1.2）。

居住地別の立地を見ると、「出生地」ではHuduu（草原）が最も多く69%を占め、「途中」ではウリヤスタイが58%と最多である（Figure 1.3）。これにより、草原で生まれた人々が徐々に都市部であるウリヤスタイへ移動している様子が確認できる。

居住地別の住宅タイプについては、「出生地」と「途中」ではゲルの割合がそれぞれ87%、56%と最も多い一方、「現居住地」では一軒家（ゲル地区およびそれ以外）が57%と最多を占める（Figure 1.4）。このことから、移動可能なゲルから定住に適した一軒家への住み替えが進んでいることが分かる。

居住地別の居候の有無を調べたところ、「出生地」と「現居住地」ではほとんど居候が見られませんが、「途中」では22%が居候がいたことが分かった（Figure 1.5）。

最後に、居住地別の転居理由を見ると、「途中」では教育が41%で最も多く、「現居住地」では不動産が30%で最多だった（Figure 1.6）。その他、仕事、結婚、家族といった理由が続いている。

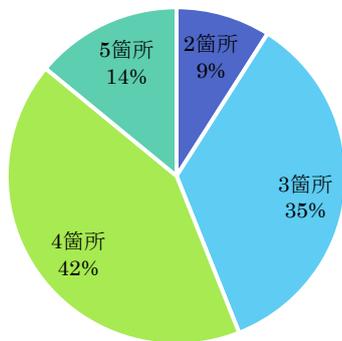


Table 1.1 居住地別の数

	N	%
出生地	100	27.7
途中	161	44.6
現居住地	100	27.7
合計	361	100.0

Figure 1.1 出生地から現居住地までの全居住地数

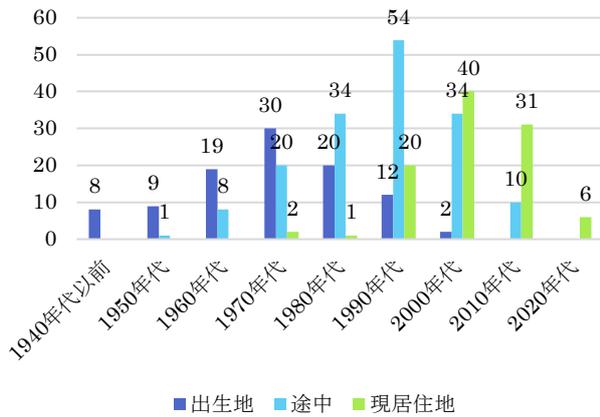


Figure 1.2 居住地別の居住開始年代

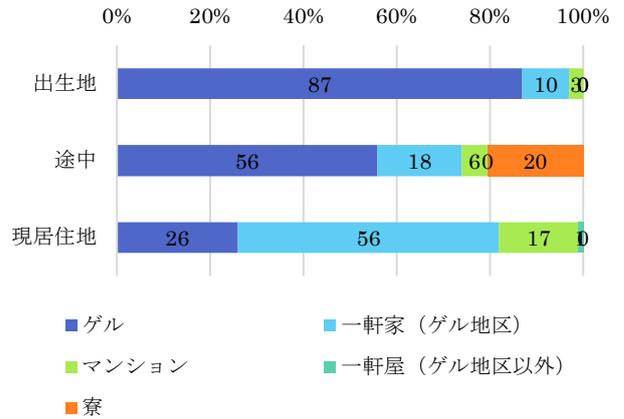


Figure 1.3 居住地別の住宅タイプ

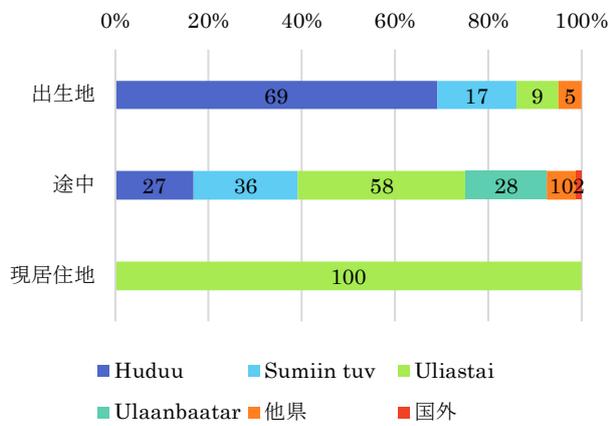


Figure 1.4 居住地別の立地

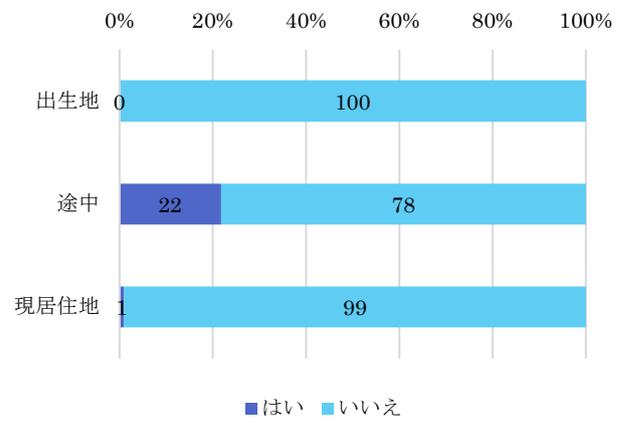
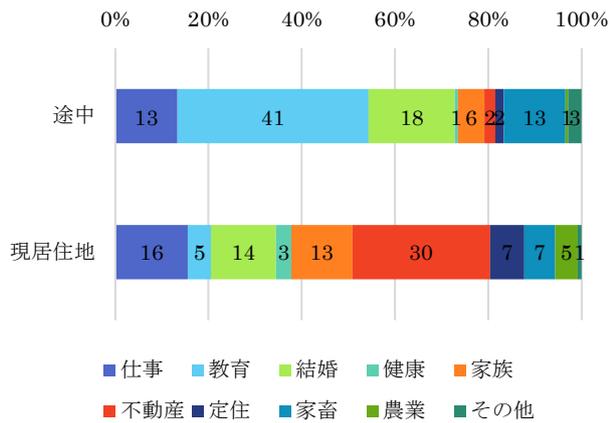


Figure 1.5 居住地別の居候有無



1.6 居住地別の転居理由

(2) 回答者および同居家族

回答者の属性をみると、年齢層では40代が最も多く、全体の32%を占めている（Figure 2.1）。性別は男女比がほぼ同等である（Figure 2.2）。職業では、無職が18%と最も多く、次いで農業、商業、サービス業、牧畜と続いている（Figure 2.3）。

回答者に年間を通じて1か月以上の移動を行っているかを尋ねたところ、69%が「行っている」と回答した（Figure 2.4）。移動期間では2か月間が38%と最多であり（Figure 2.5）、移動時期としては7月が最も多く25%、次いで8月が22%となっている（Figure 2.6）。移動の理由については、「家族・親戚」が最も多く24%、次いで「牧畜」が23%を占めている（Figure 2.7）。

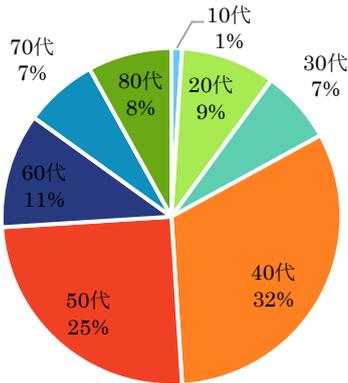


Figure 2.1 回答者の年齢

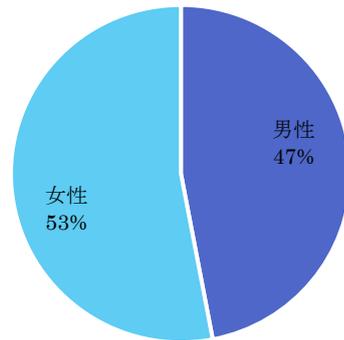


Figure 2.2 回答者の性別

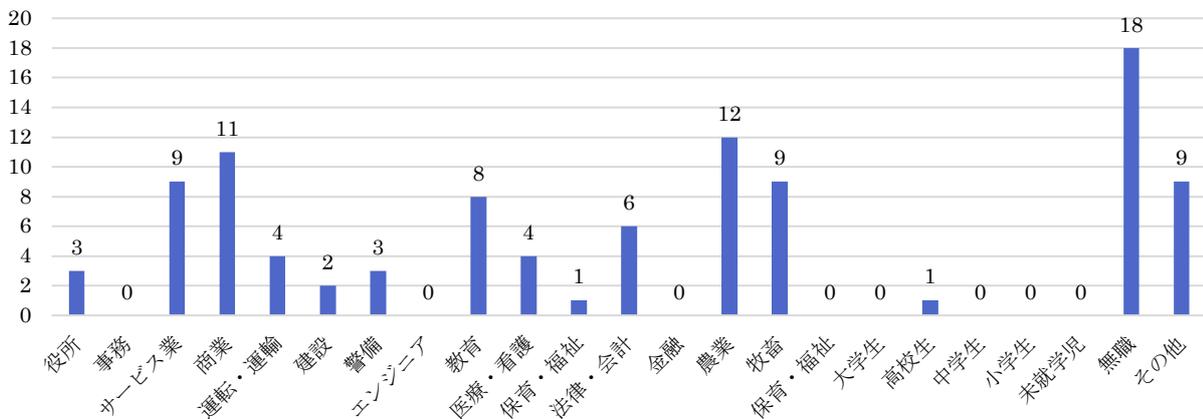


Figure 2.3 回答者の学校・職種など

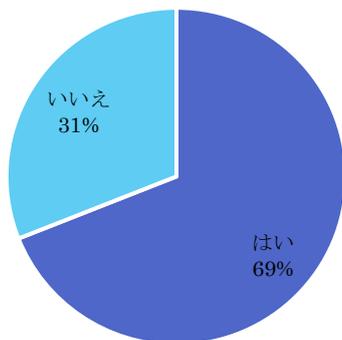


Figure 2.4 回答者の移動有無

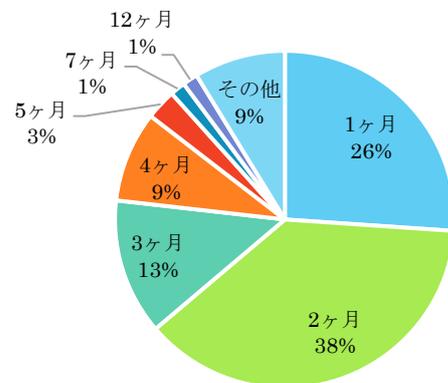


Figure 2.5 回答者の移動期間

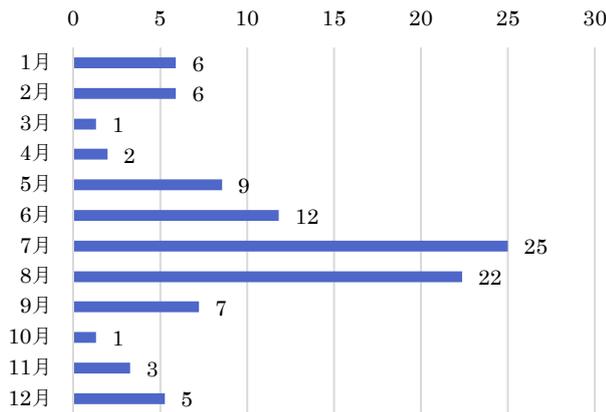


Figure 2.6 回答者の移動時期

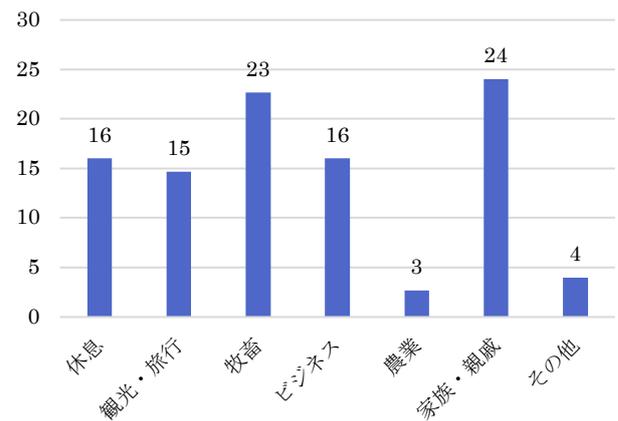


Figure 2.7 回答者の移動理由

同居家族の構成員数については、2人が最も多く28%を占め、次いで1人と3人がそれぞれ21%、4人が18%と続いており、比較的少人数の世帯が多いことが分かった (Figure 2.8)。

家族構成員の属性を見ると、年齢層では10代が最も多く22%を占めている (Figure 2.9)。性別では女性がやや多く、全体の56%を占めている (Figure 2.10)。職業については、無職が12%と最も多く、中学生や高校生がそれに続いている (Figure 2.11)。

また、家族構成員が年間を通じて1か月以上の移動を行っているかについては、55%が「行っている」と回答した (Figure 2.12)。移動期間では1か月間が最も多く35%を占めており (Figure 2.13)、移動時期としては7月が29%と最多、次いで8月が26%となっている (Figure 2.14)。移動の理由としては、「家族・親戚」を訪れる目的が最も多く30%、次いで「観光・旅行」が22%となっている (Figure 2.15)。

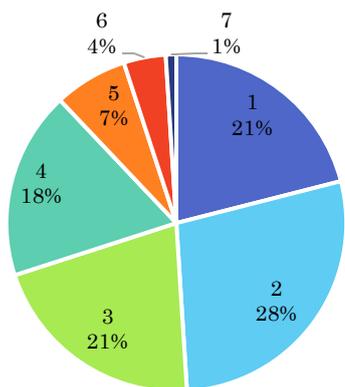


Figure 2.8 同居家族の構成員数

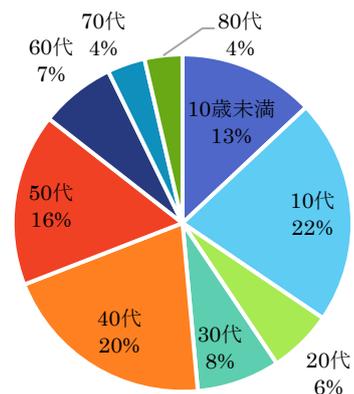


Figure 2.9 同居家族の年齢

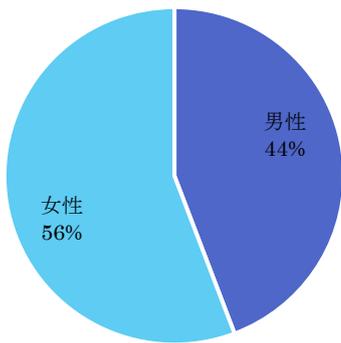


Figure 2.10 同居家族の性別

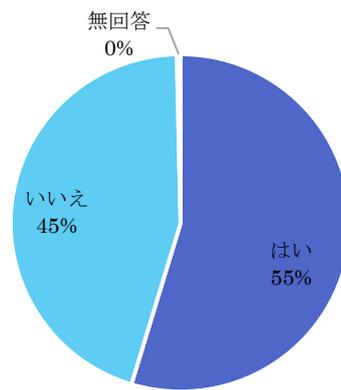


Figure 2.12 同居家族の移動有無

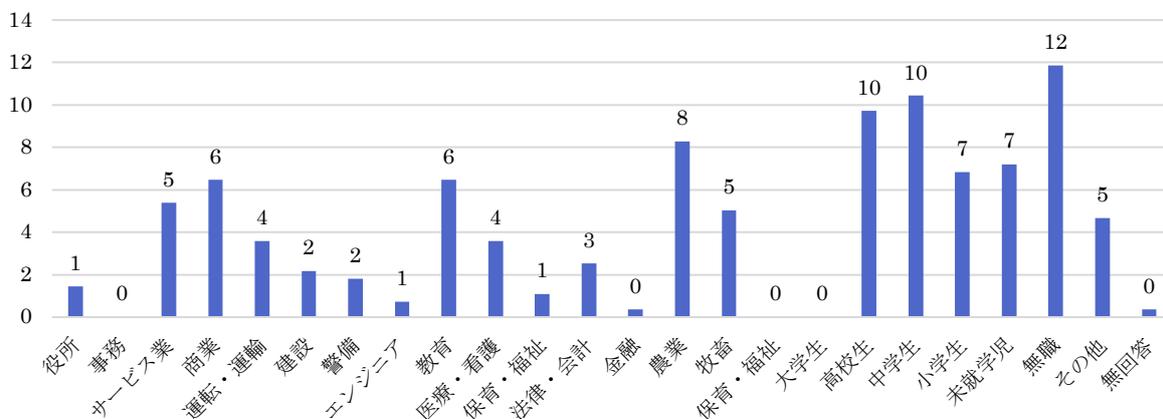


Figure 2.11 同居家族の学校・職種など

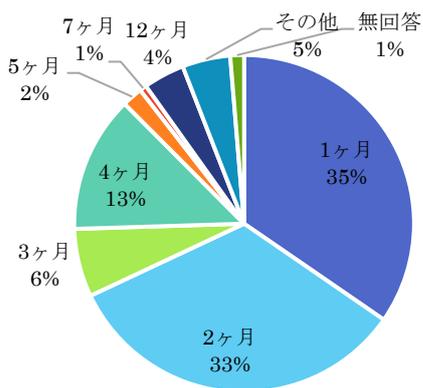


Figure 2.13 同居家族の移動期間

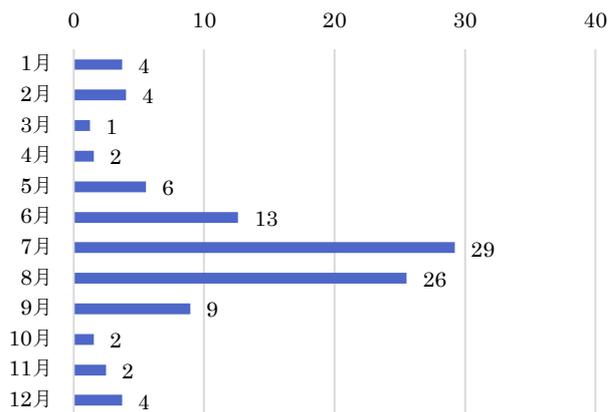


Figure 2.14 同居家族の移動時期

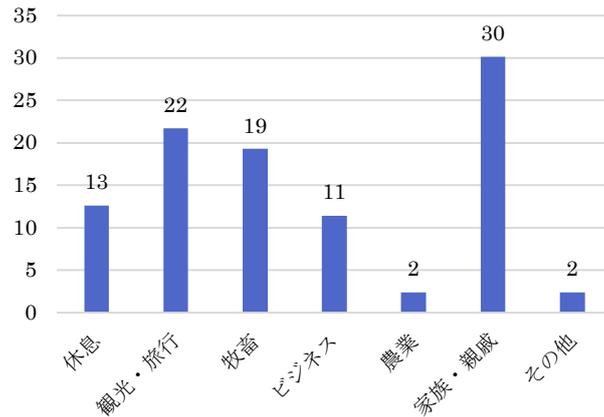


Figure 2.15 同居家族の移動理由

(3) 非同居・未独立の家族

非同居・未独立の家族の有無について、58%が「いる」と回答している（Figure 3.1）。「いる」と回答した者のうち、48%が1人、43%が2人いると回答している（Figure 3.2）。

非同居・未独立の家族の年齢では、20代が最も多く70%を占めている（Figure 3.3）。性別については、女性が55%とやや多い（Figure 3.4）。また、彼らの50%が大学生であり（Figure 3.5）、64%が首都ウランバートルに居住している（Figure 3.6）。

非同居・未独立の家族の年間を通じた移動状況を見ると、74%が「移動している」と回答している（Figure 3.7）。移動期間については、2か月間が最も多く42%を占めており（Figure 3.8）、移動時期としては7月と8月がそれぞれ26%で最多となっている（Figure 3.9）。移動の理由では、67%が「家族・親戚」を理由に挙げており、これが最も多い（Figure 3.10）。

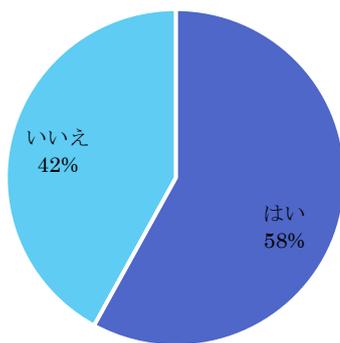


Figure 3.1 非同居・未独立の家族の有無

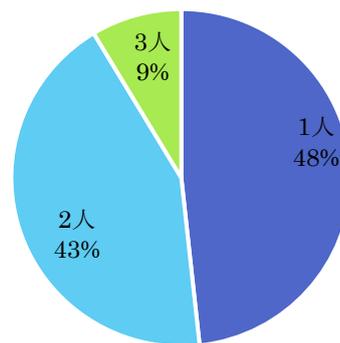


Figure 3.2 非同居・未独立の家族の数

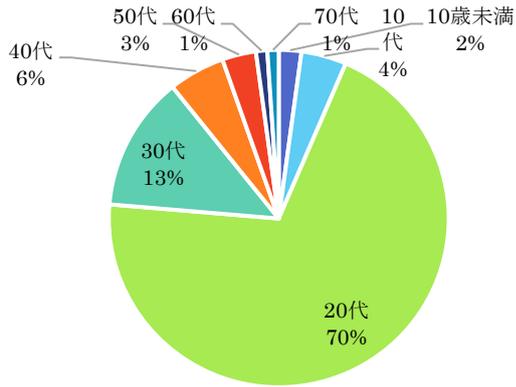


Figure 3.3 非同居・未独立の家族の年齢

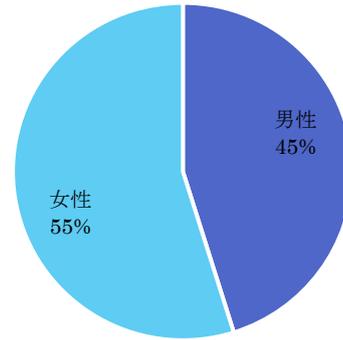


Figure 3.4 非同居・未独立の家族の性別

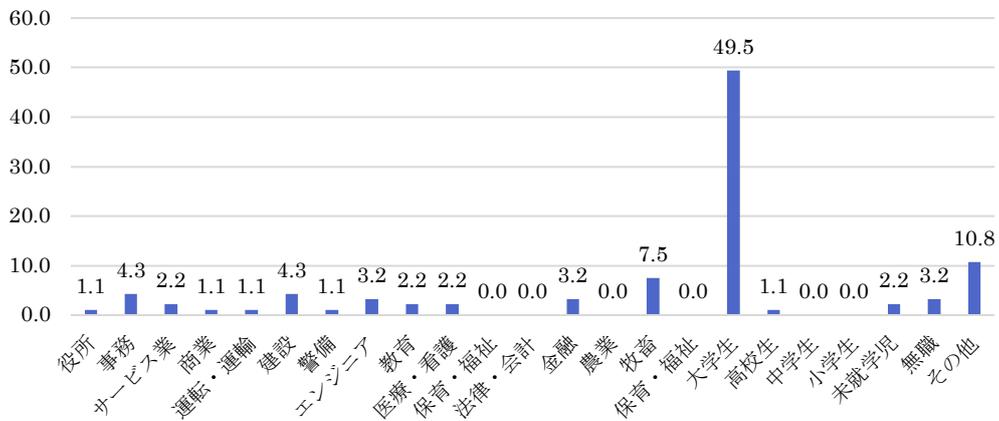


Figure 3.5 非同居・未独立の家族の学校・職種など

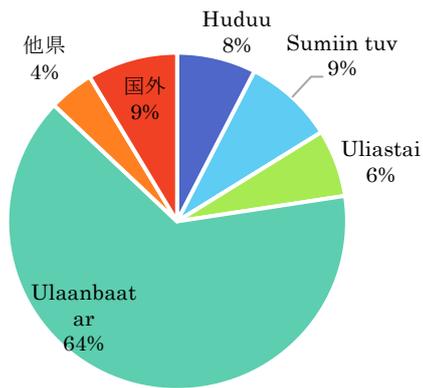


Figure 3.6 非同居・未独立の家族の居住地

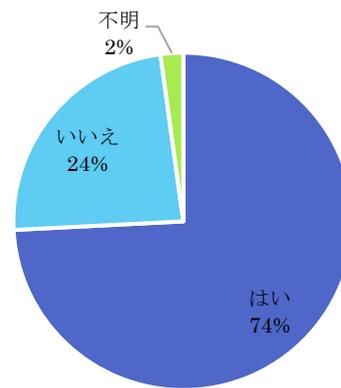


Figure 3.7 非同居・未独立の家族の移動の有無

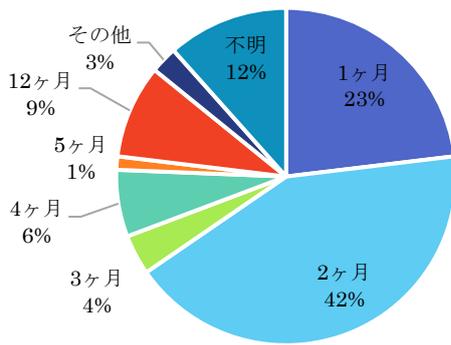


Figure 3.8 非同居・未独立の家族の移動期間

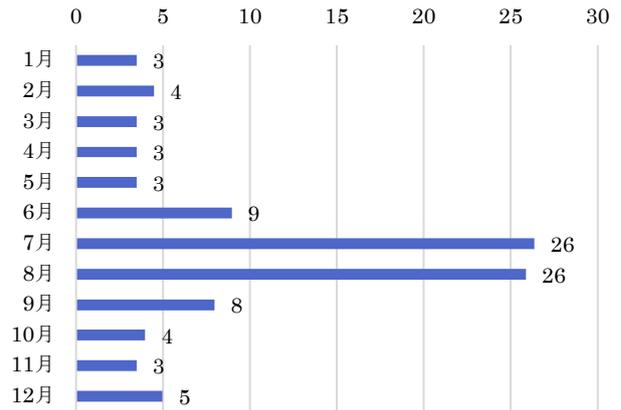


Figure 3.9 非同居・未独立の家族の移動時期

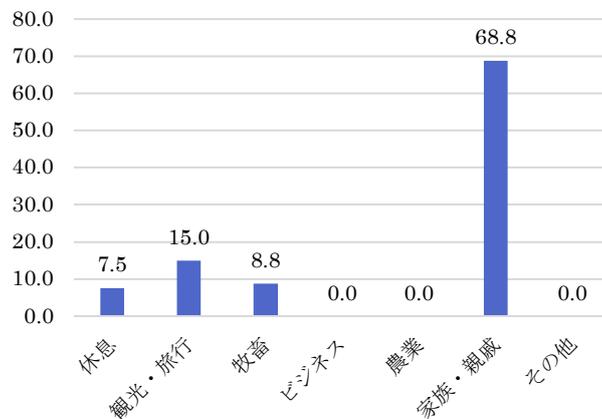


Figure 3.10 非同居・未独立の家族の移動理由

(4) 非家族の同居人

非家族同居人の有無について、15%が「いる」と回答している (Figure 4.1)。「いる」と回答した者のうち、93%が1人いると回答している (Figure 4.2)。

非家族同居人の年齢では、10代が最も多く65%を占めている (Figure 4.3)。性別では女性が53%とやや多い (Figure 4.4)。また、彼らの47%が高校生である (Figure 4.5)。

非家族同居人と回答者家族との関係については、全員が親族関係にあり (Table 4.1)、家畜を飼育している者との関係を有するのは6%にとどまっている (Table 4.2)。

非家族同居人の年間を通じた移動状況を見ると、65%が「移動している」と回答している (Figure 4.6)。移動期間では2か月間が最も多く46%を占めており (Figure 4.7)、移動時期としては6月から8月にかけて、それぞれ32%が移動している (Figure 4.8)。移動の理由については、全員が「家族・親戚」を目的としていることが分かった (Table 4.3)。

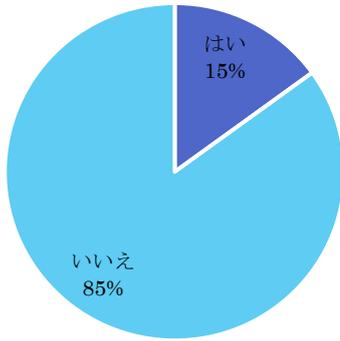


Figure 4.1 非家族同居人の有無

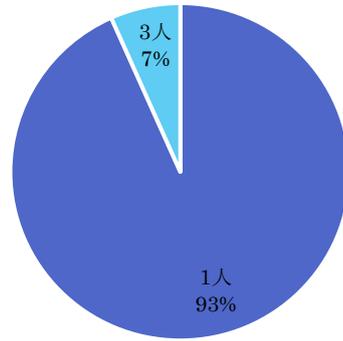


Figure 4.2 非家族同居人の数

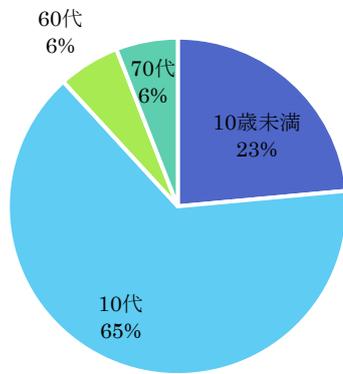


Figure 4.3 非家族同居人の年齢

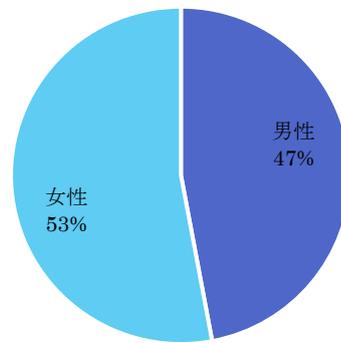


Figure 4.4 非家族同居人の性別

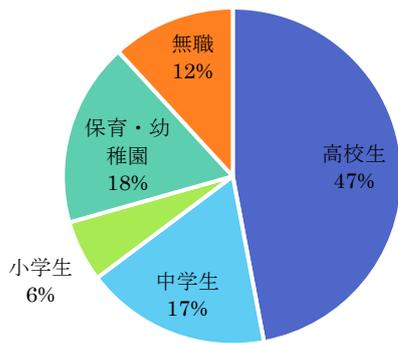


Figure 4.5 非家族同居人の学校・職種など

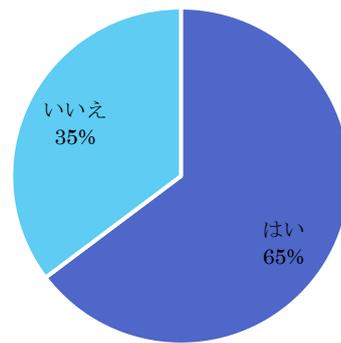


Figure 4.6 非家族同居人の移動の有無

Table 4.1 非家族同居人の家族との関係

	N	%
親戚	17	100
合計	17	100

Table 4.2 非家族同居人と家畜飼育

	N	%
はい	1	6
いいえ	16	94
合計	17	100

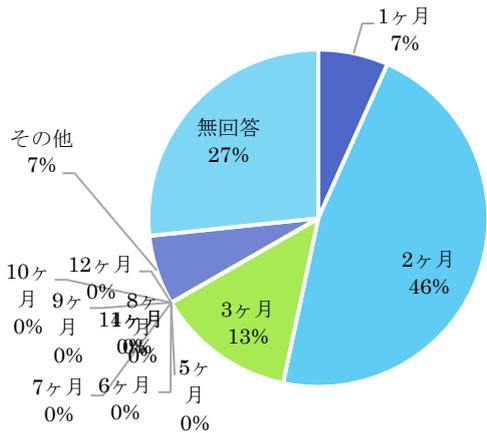


Figure 4.7 非家族同居人の移動期間

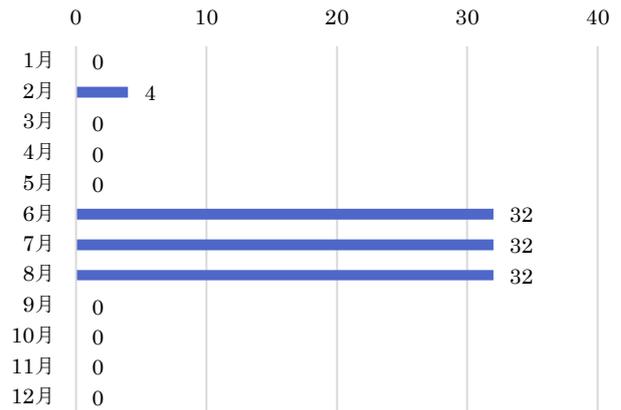


Figure 4.8 非家族同居人の移動時期

Table 4.3 非家族同居人の移動理由

	N	%
休息	0	0
観光・旅行	0	0
牧畜	0	0
ビジネス	0	0
農業	0	0
家族・親戚	11	100
その他	0	0

(5) 家畜の所有

家畜を所有している世帯は全体の53%を占めている (Figure 5.1)。これらの世帯のうち、小家畜 (ひつじ、やぎ) と大家畜 (うま、うし、ラクダ) の両方を所有している世帯が最も多く、全体の85%を占めている。一方で、小家畜のみを所有する世帯は6%、大家畜のみを所有する世帯は9%にとどまっている (Figure 5.2)。

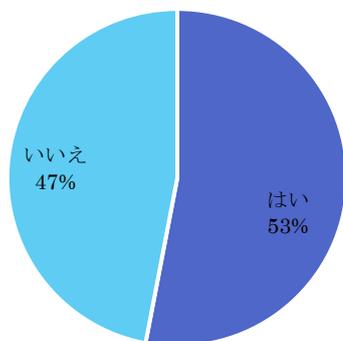


Figure 5.1 家畜の所有状況

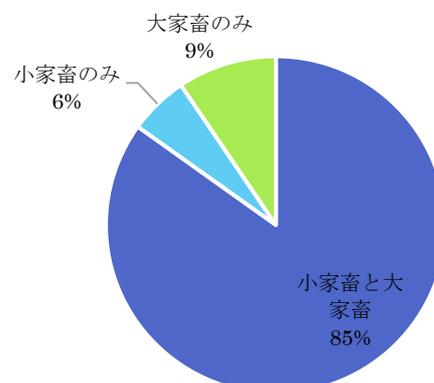


Figure 5.2 家畜の所有状況

小家畜を所有している世帯について、所有頭数を見ると、100～499頭を所有している世帯が最も多く、全体の52%を占めている（Figure 5.3）。小家畜の飼育場所については、Yaruuが29%で最多となり、次いでErdenekhairkhanが21%を占めている（Figure 5.4）。また、小家畜を飼育している人を見ると、「雇用者」が38%で最も多く、「親戚」が26%、「家族」が19%と続いている（Figure 5.5）。



Figure 5.3 小家畜の所有状況

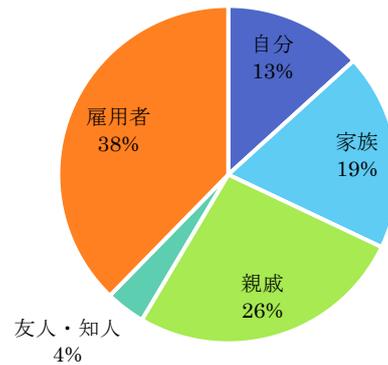


Figure 5.5 小家畜の飼育者

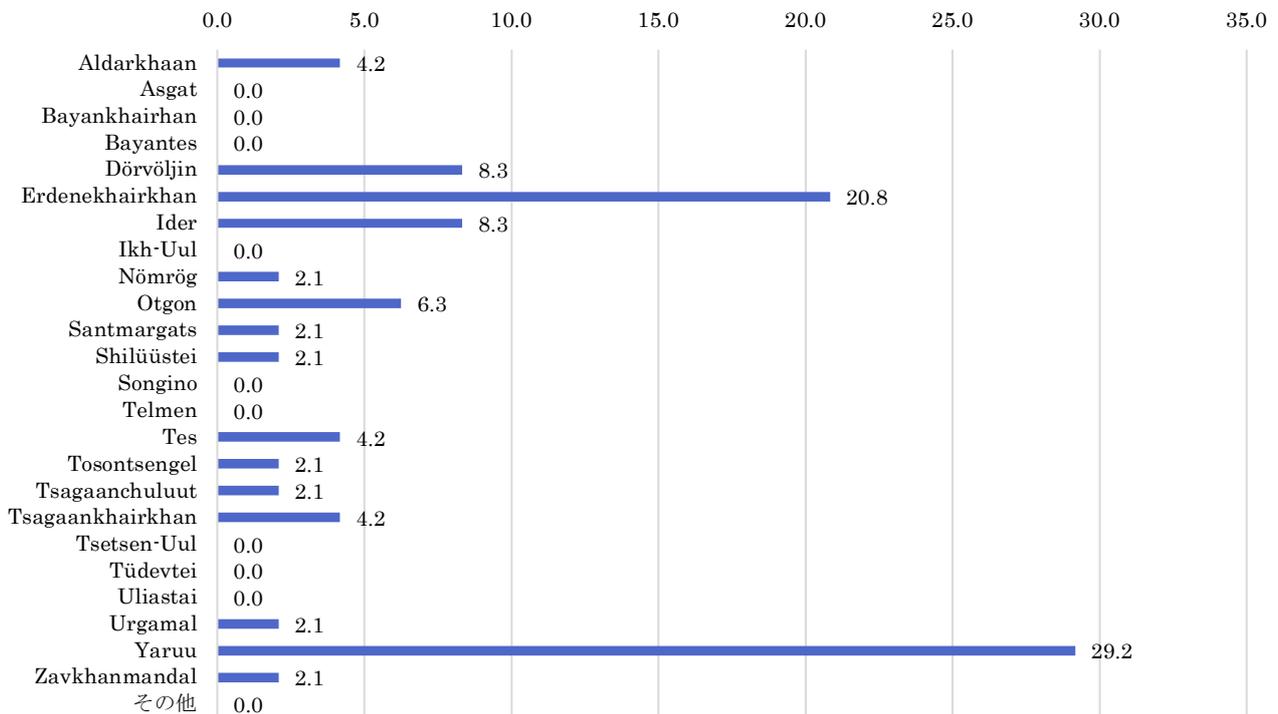


Figure 5.4 小家畜の飼育場所

大家畜を所有している世帯について、所有頭数を見ると、1～24頭を所有している世帯が最も多く、全体の56%を占めている（Figure 5.6）。大家畜の飼育場所では、Yaruuが30%で最多となり、次いでErdenekhairkhanが20%となっている（Figure 5.7）。また、大家畜を飼育している人については、「雇用者」が33%で最も多く、「親戚」が30%、次いで「家族」が20%となっている（Figure 5.8）。

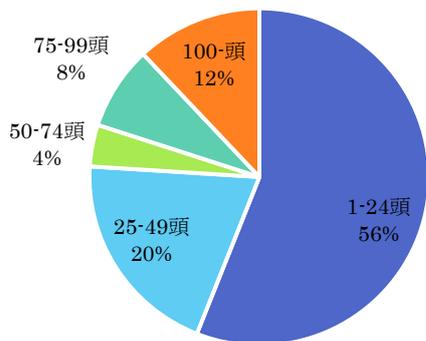


Figure 5.6 大家畜の所有状況

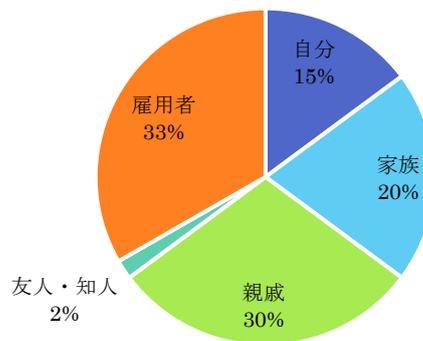


Figure 5.8 大家畜の飼育者

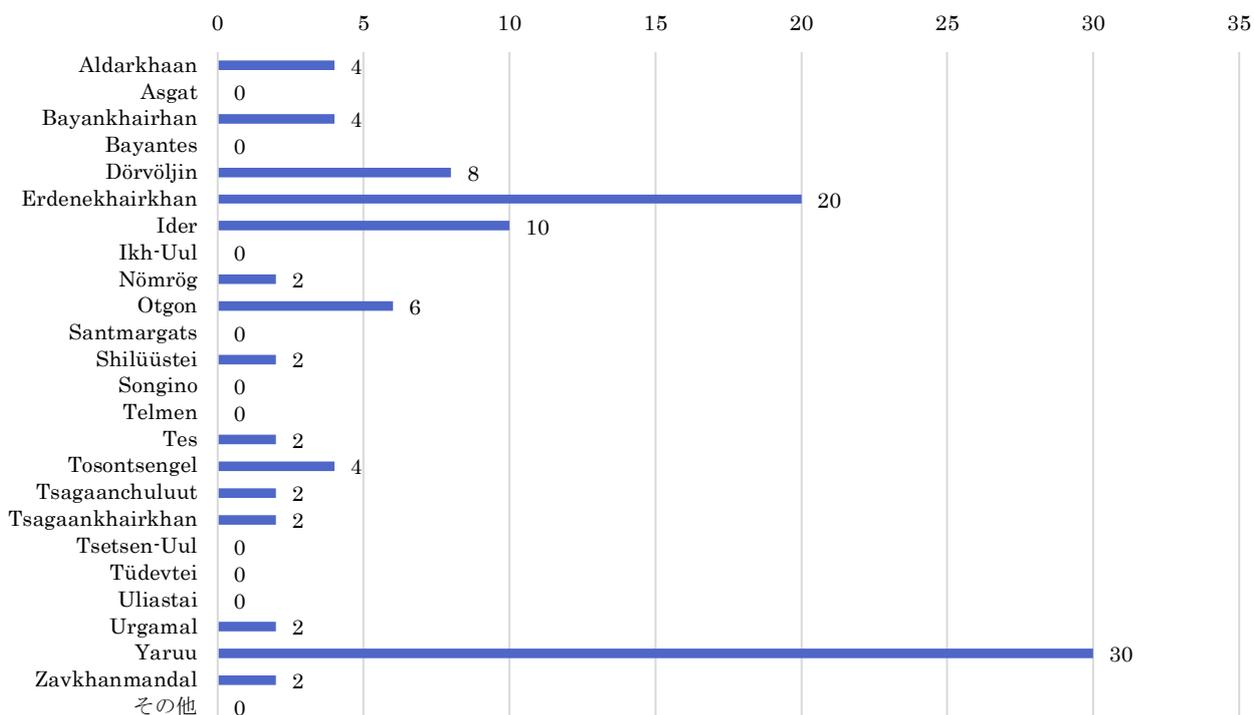


Figure 5.7 大家畜の所有場所

(6) 家畜飼育者への生活支援

家畜を所有している世帯に対し、家畜を飼育している者への生活支援（食糧、石炭、木材、干し草などの供給）を行っているか尋ねたところ、79%が「支援を行っている」と回答した（Figure 6.1）。

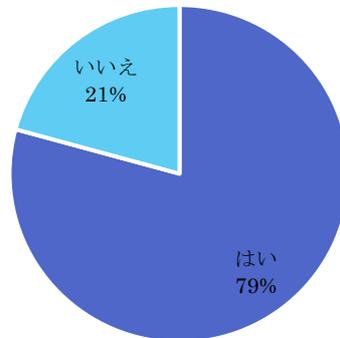


Figure 6.1 家畜飼育者への生活支援の有無

(7) 田畑の所有

全体の24%が田畑を所有している（Figure 7.1）。

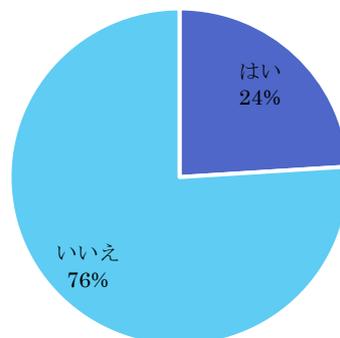


Figure 7.1 田畑の所有状況

(8) 現住宅以外の住宅所有

全体の38%が現在住んでいる住宅以外に住宅を所有していることが分かった（Figure 8.1）。所有している現住宅以外の住宅の数は1～3軒で、1軒のみ所有している世帯が84%と最も多い（Figure 8.2）。

現住宅以外の住宅の立地については、Huduuが42%で最も多く、次いでウランバートルが27%、ウリヤスタイが24%と続いている（Figure 8.3）。また、HuduuやSumiin tuvと回答した者のう

ち、29%がウリヤスタイ、24%がErdenekhairkhanに位置すると回答している（Figure 8.4）。

さらに、現住宅以外の住宅が現住宅の敷地内にあるかどうかを尋ねたところ、「敷地内にある」と回答した者は16%だった（Figure 8.5）。

現住宅以外の住宅のタイプを見ると、ゲルが最も多く60%、次いでマンションが27%、一軒家が13%を占めている（Figure 8.6）。

また、現住宅以外の住宅に年間を通して居住するかについて尋ねたところ、44%が「居住する」と回答した（Figure 8.7）。居住する場合の期間については、2か月間が最も多く32%、次いで4か月間が20%を占めている（Figure 8.8）。居住時期については、7月が44%で最多、次いで8月が38%、6月が33%となっている（Figure 8.9）。

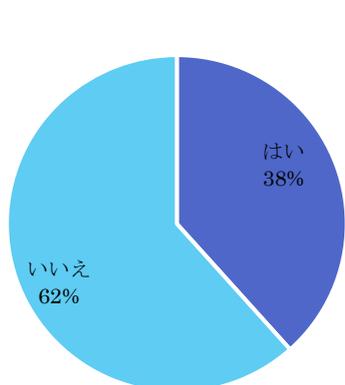


Figure 8.1 現住宅以外の住宅所有の有無

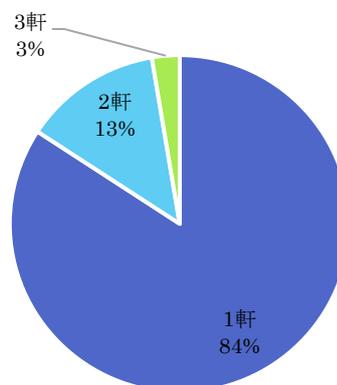


Figure 8.2 現住宅以外の住宅所有数

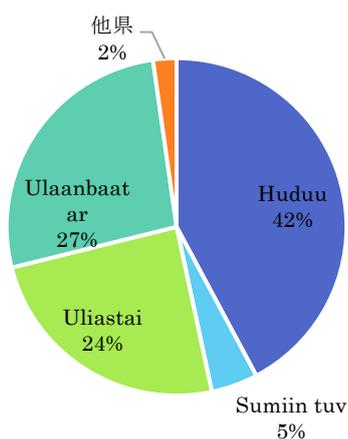


Figure 8.3 現住宅以外の住宅立地

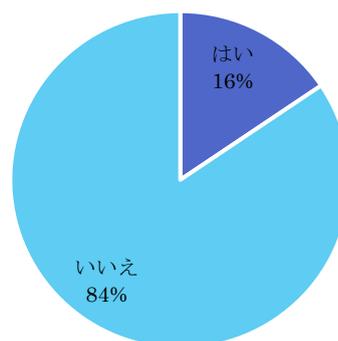


Figure 8.5 現住宅以外の住宅の敷地内立地

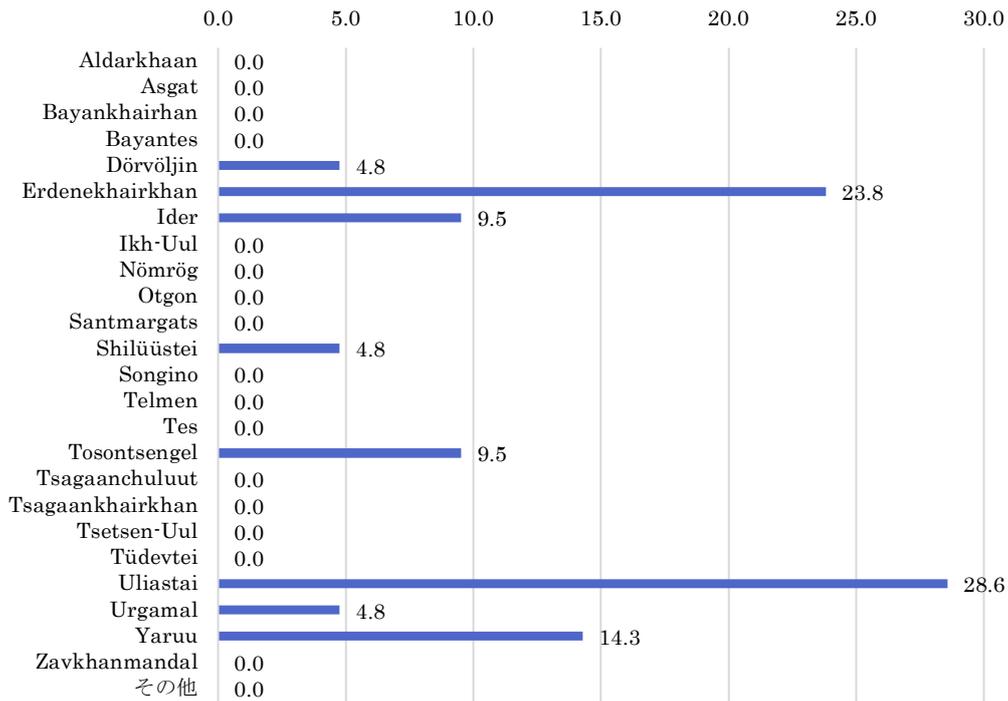


Figure 8.4 現住宅以外の住宅立地

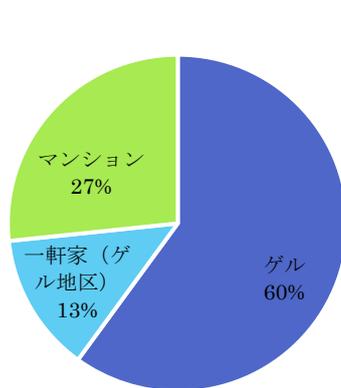


Figure 8.6 現住宅以外の住宅タイプ

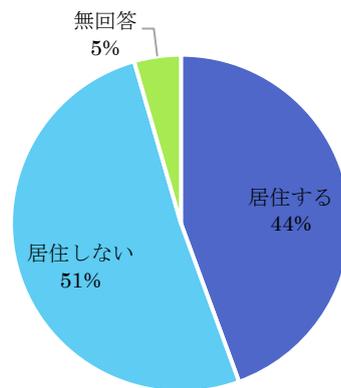


Figure 8.7 現住宅以外の住宅の居住の有無

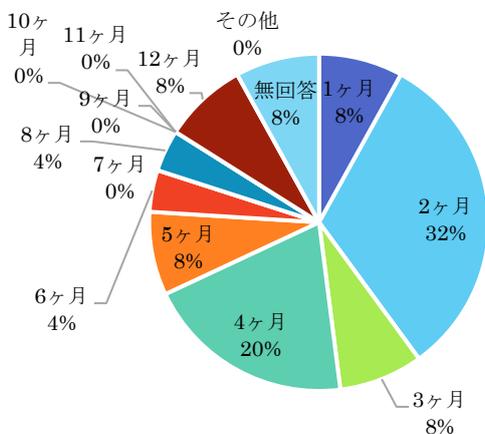


Figure 8.8 現住宅以外の住宅の居住期間

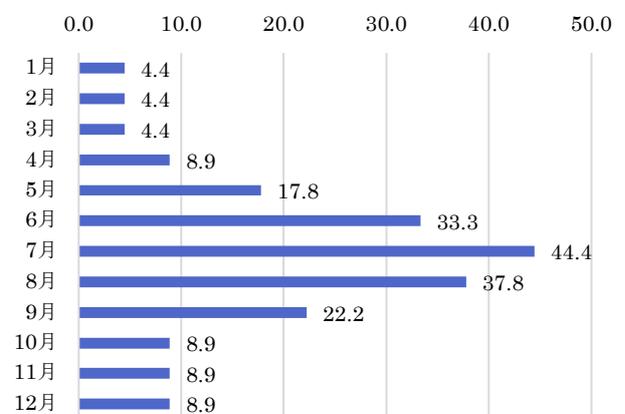


Figure 8.9 現住宅以外の住宅の居住時期

(9) 家族以外の住宅管理

全体の34%が家族以外の住宅を管理していることが分かった（Figure 9.1）。管理している住宅の戸数については、1戸のみと回答した世帯が最も多く、全体の74%を占めている（Figure 9.2）。

また、管理している住宅が現在住んでいる住宅の敷地内にあるかどうかについては、44%が「敷地内にある」と回答している（Figure 9.3）。

さらに、管理している住宅の所有者が回答者の所有する家畜を飼育しているかを尋ねたところ、「飼育している」と回答したのはわずか5%にとどまった（Figure 9.4）。

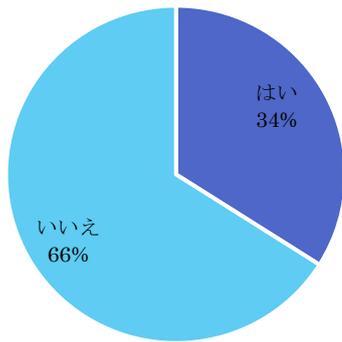


Figure 9.1 非家族住宅の管理の有無

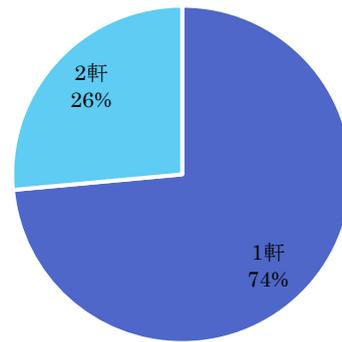


Figure 9.2 非家族住宅の管理数

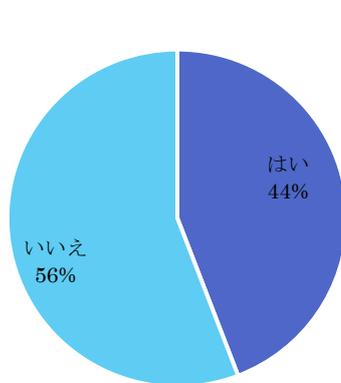


Figure 9.3 非家族住宅の敷地内立地

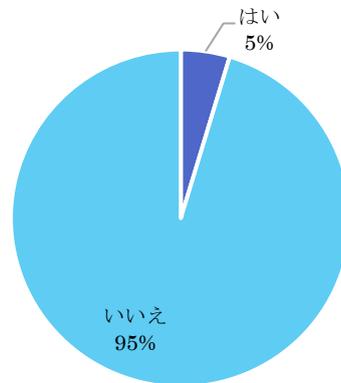


Figure 9.4 非家族住宅と家畜飼育

(10) 生活環境に対する満足度

Huduu（草原）、Sumiin tuv（村）、ウリヤスタイ（地方都市）、ウランバートル（首都）における生活環境への満足度について調査した結果は以下の通りである。

「自然環境」「人間関係」「都市的な安全性」に関しては、Huduuで満足度が最も高く、都市部に向かうにつれて満足度が低下し、ウランバートルで最も低くなる傾向が見られた（Figure 10.1, Figure 10.2, Figure 10.4）。

一方、「インフラ」「生活環境」「仕事」「教育環境」に関しては、都市部ほど満足度が高くなる傾向があり、ウランバートルが最も高く、Huduuが最も低かった（Figure 10.5, Figure 10.6, Figure 10.7, Figure 10.8）。

「自然からの安全性」と「娯楽」に関しては、Sumiin tuvとウリヤスタイで満足度が高い傾向が見られる一方、Huduuとウリヤスタイでは満足度が低い傾向が見られた（Figure 10.3, Figure 10.9）。

また、総合的な満足度として「暮らし全般」を見ると、地域間で大きな差は見られなかった（Figure 10.10）。

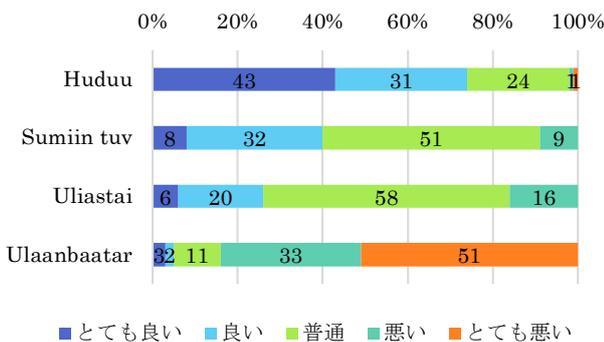


Figure 10.1 自然環境に対する満足度

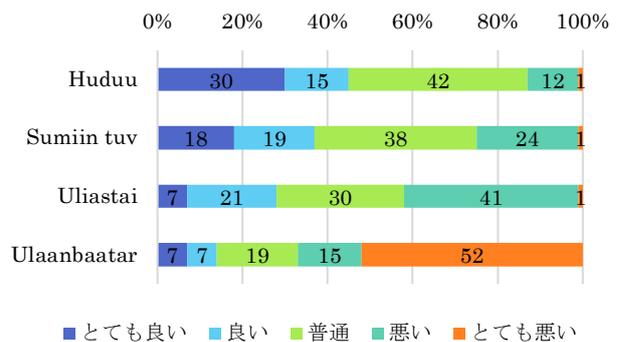


Figure 10.2 人間関係に対する満足度

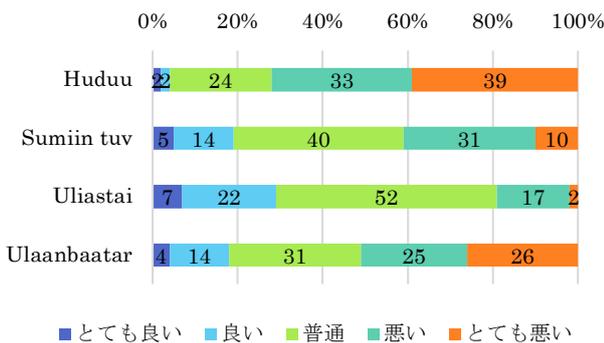


Figure 10.3 自然からの安全性に対する満足度

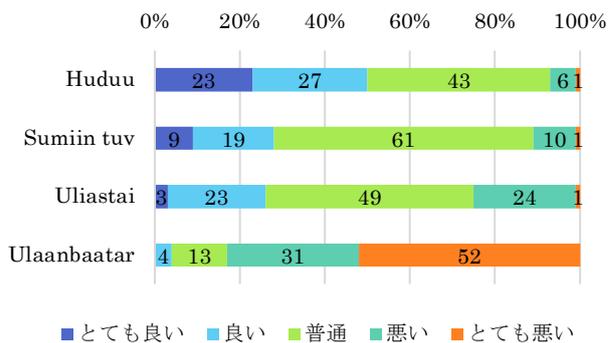


Figure 10.4 都市的な安全性に対する満足度

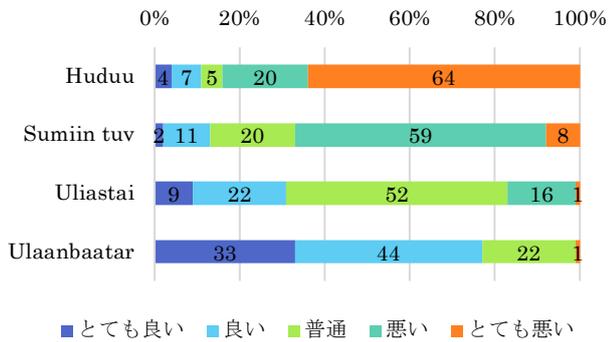


Figure 10.5 インフラに対する満足度

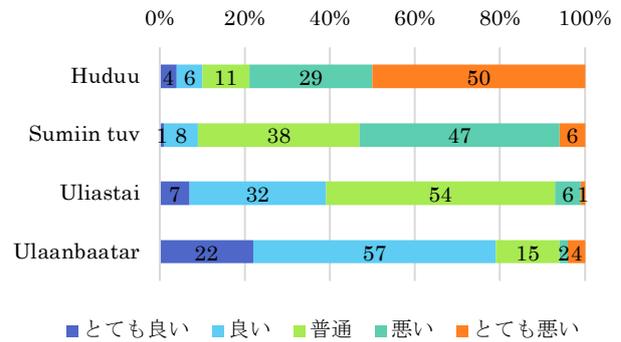


Figure 10.6 生活環境に対する満足度

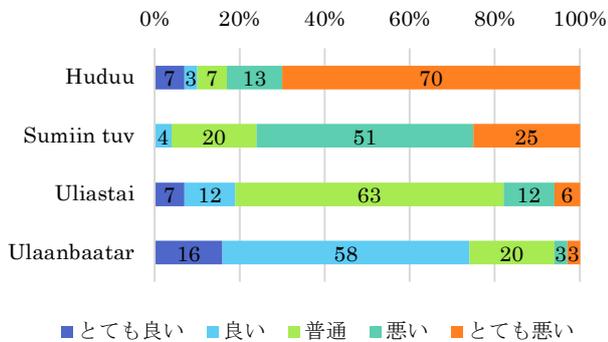


Figure 10.7 仕事に対する満足度

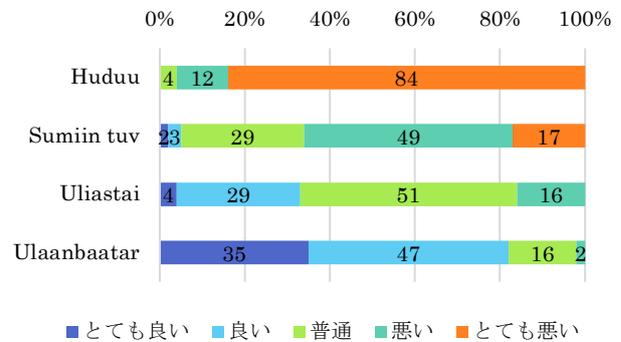


Figure 10.8 教育環境に対する満足度

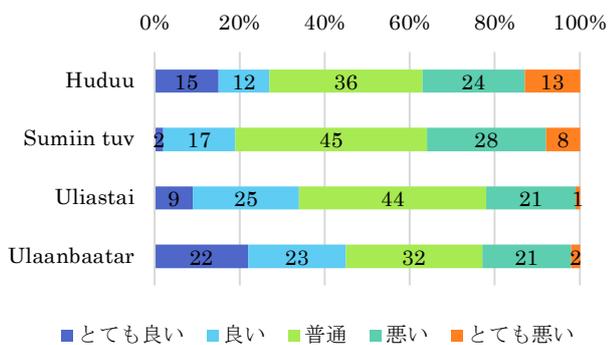


Figure 10.9 娯楽に対する満足度

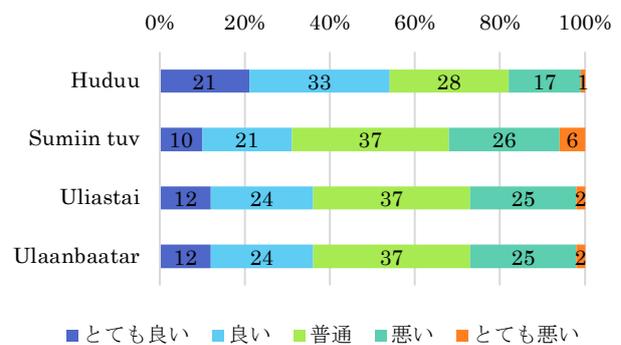


Figure 10.10 暮らし全般に対する満足度 (総合満足度)

まとめ

本調査から、移住履歴、家族構成、家畜所有、住宅所有・管理、そして生活環境の満足度に関する実態が明らかになった。

移住履歴では、出生地から現居住地までの居住地数が2～5箇所、4箇所が最も多い傾向が見られた。草原（Huduu）で出生し、村（Sumiin tuv）やウランバートルなどを経ながらウリヤスタイに移住する傾向が確認された。住宅タイプは移動可能なゲルから定住型の一軒家へと変化している。移動理由は途中では教育、現居住地では不動産が主な要因となっていることが分かった。

回答者および同居家族については、回答者の多くが40代で、年間1か月以上移動する者が69%に達した。少人数世帯が中心で、10代が多いことが分かった。また、家族の半数以上が年間1か月以上移動し、主な理由は家族や親戚を訪れることであった。

非同居・未独立の家族を持つ世帯は58%に上り、その多くが20代の大学生でウランバートルに居住していることが分かった。同様に、非家族の同居人は15%の世帯に見られ、そのほとんどが10代の親族であり、高校生であることが分かった。

家畜の所有では、53%の世帯が家畜を所有し、小家畜と大家畜の両方を所有する世帯が大半を占めている。また、多くの家畜飼育者が生活支援を受けていることが分かった。

住宅所有と管理においては、38%が現住宅以外の住宅を所有し、その多くがゲルで、主に草原に立地している。また、34%の世帯が家族以外の住宅を管理しており、その一部が自宅敷地内に位置しているが、家畜飼育と関連するケースはわずかである。

生活環境の満足度については、自然環境や人間関係は草原で高く、都市部では低下する傾向が見られた。一方、インフラや教育環境などの都市機能に関する満足度は都市部で高く、草原で低い結果となった。総合的な満足度には地域間で大きな差は見られなかった。